

# 令和8年度「小岩小学校学校経営基本方針」

江戸川区立小岩小学校  
校長 平田 鐘明

## ◎小岩小学校がめざす学校の姿

**子供の笑顔があふれる楽しい学校**  
**地域や保護者から愛される学校**

### めざす子供の姿

- 「考える子」・・・問題を解決するためにどうしたらよいか考える子供
- 「思いやりのある子」・・・相手の気持ちを考えることができる子供
- 「元気な子」・・・自分の健康について考えることができる子供

### めざす教職員の姿

- 常に子供と寄り添い、子供たちのよりよい変容を目指す人間性豊かな教職員
- 教育公務員としての職務を自覚し、他の教職員と協調・協働して自らの能力の向上をめざす教職員
- 子供・保護者・地域・同僚から信頼される教職員

## ◎めざす学校を実現するための基本方針

### (1) 「楽しい学校」の創造

子供が集団生活の中で生き生きと学び、その中で一人一人の子供が自己有用感をもつとともに、学級の中に存在感を感じる経営を常に意識する。

#### ① 学ぶ楽しさ

どの子供も、「わかるようになりたい」「できるようになりたい」という願いをもっている。この意欲を大切にし、一人一人の子供に達成感を味わわせる授業の創造を目指す。そのためには、各教科の授業改善、教材研究に真摯に取り組むとともに、区の教育研究会（区小教研）や研修にも積極的に参加し、資質向上に努めていく。

#### ② 友達とかかわる楽しさ

授業だけでなく、行事や休み時間等、学校生活のあらゆる場面で意図的に友達とかかわる場面を増やすことにより、豊かな子供の育成を目指す。共に考え、遊ぶことにより、他者への思いやり・相手の気持ちを理解する優しさがはぐくまれていく。豊かな心の育成を通して、いじめや不登校のない学校を創り上げていく。

#### ③ 教師と触れ合う楽しさ

授業中だけでなく、休み時間も常に子供に寄り添い、声をかけ、様々な個性をもった子供を理解していく。子供となれ合いになるのではなく、けじめをもって接していくことで信頼関係を築いていく。指導を行う際も、まずは子供の発言等をしっかりと受け止めた上で納得させる指導を行っていく。子供が教師を信頼して心を開き、安心してなんでも話ることができる温かい雰囲気のある学級、一人一人の子供がクラスの中で存在感を感じる学級を創造する。

## (2) 家庭・地域との連携

かけがえのない子供をまかされている、という自覚と、学校を愛する地域の期待を常に意識し、日々の教育にあたる。

### ① 開かれた学校

保護者・地域からの疑問・要望・意見には誠実に耳を傾け、共に子供を育てていくという意識をもつ。保護者会や個人面談、学校公開等はもちろん、他校種との連携も意識し、常に開かれた学校をめざす。家庭環境の把握及び保護者との情報交換を十分に行うことで、より一層の連携強化を図る。

また、学校便り、学年便り、学校ホームページを効果的に活用し、校内での様々な活動における子供達の様子や必要な情報等を積極的に発信していく。学校ホームページについては、各学年、原則毎月1回以上更新していく。

### ② 迅速・誠実・的確な対応

何よりも、「子供の命と安全を守る」ことが絶対である。日々の安全点検、外来者への声かけ、交通安全への対応等、常に危機意識の高揚を図っていく。

しかし、どんなに注意していても、トラブルや怪我は起きることがある。

大切なことは、その後の対応である。「迅速・的確・誠実」を対応の三原則とし、常に心がけておきたい。トラブル発生の際は、電話・連絡帳等の間接的な方法は絶対に避け、直接面談して説明・報告・謝罪等を行うとともに、今後の具体的な対応について心を込めて伝える誠意が何よりも必要である。また、どんなときでも報告・連絡・相談を必ず行う。

## (3) 関係諸機関との連携によるいじめ・不登校への対応について

### ① いじめの未然防止及び対応

「いじめはいつでも起こりうる、いつ発生してもおかしくない」、そして「いじめは本人がいじめられていると感じればいじめである」という共通理解のもと全教職員でいじめの未然防止、早期発見、再発防止に全力で取り組む。

日常的な取組として「L-Gate」を活用し、児童一人一人が一日の終わりに自分の気持ちについてタブレットを使用して絵文字で表すことで「心の健康観察」を行い、児童の毎日の変化や小さな声を担任が察知し、問題の未然防止、早期発見・早期対応につなげていく。

また、全校児童を対象とした「いじめアンケート調査」を年3回実施する。その結果を校内いじめ対策委員会で分析し、いじめ(疑わしいものも含む)が発覚した場合は早急に対応することでいじめの拡大防止、心のケア、再発防止を図る。

いじめは陰湿なものほど発見しづらいものである。そこで、教員は常に児童観察を怠ることなく行い、普段と違う様子等が見られた時には児童との面談、保護者への連絡を行うとともに、生活指導夕会等において周知し、多くの大人の目で見守っていくことで、未然防止、早期発見に努める。さらに保護者と十分に連携し、家庭でも注意深く見守ってもらう。

確かにいじめは発見しづらいケースもあるが、学校と家庭でしっかり連携し、決してあきらめずに未然防止、早期発見に努めていく。

### ② 不登校への対応

登校したくてもできない状況にある児童への適切な支援を行うため、教職員間での定期的な情報共有やアセスメントを行うとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係諸機関、民生児童委員等との連携を積極的に図る。

## ☆小岩小学校はコミュニティ・スクールです！

令和8年度より小岩小学校は地域の方々・保護者の皆様・学校がともに知恵を出し合い、協働することで子供たちにとってよりよい学校づくりを進めるコミュニティ・スクール（CS）となりました。

コミュニティ・スクール（CS）は、学校運営協議会が中心となっています。

近年、教職員の長時間勤務や教える内容の増加、ICT技術の活用、子どもたちの体力向上、いじめ・不登校へのきめ細やかな対応など、学校は取り組むべき多くの課題を抱えています。さらに、これから子どもたちが生きる社会は、情報化やグローバル化の進展、雇用環境の変化など、大きく変わっていきます

目の前の課題を解決し、新たな時代をたくましく生きる力を育むために、学校・家庭・地域が協働し、「地域とともにある」学校づくりを進めることで、社会全体で子どもたちを育むことが求められているのです。

### 令和8年度 小岩小学校がめざす教育

#### 主体的に自分から学びを楽しむ子の育成

～興味をもち、心で感じ、「なぜ？」と考え一歩前に！～

地域、家庭と十分に連携し、自ら進んで学びを楽しむ子を育成するとともに、自分たちの住む街「小岩」と「小岩小学校」に誇りと愛着をもち、ふるさとを愛し、社会性を身に付け、社会の担い手となる子を育てていきます。

確かな学力の定着

（考える子）

豊かな心の育成

（思いやりのある子）

#### 主体的な学びを実現するための4つの柱

心と体の健康づくり

（元気な子）

共生社会の実現

支える

家庭・地域との連携推進

## 取組 1

# 「確かな学力の定着」(考える子)

◎次の取組を通して、確かな学力の定着に取り組んでいきます。

<p><b>①個に応じた学習指導の実施</b></p>	<p><b>②小岩小授業スタンダードの確立</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸川区学力調査や全国学力調査、レディネステスト等の結果をもとに、子供たち一人一人の実態を把握し、課題を明確にした授業を組み立てていきます。</li> <li>・子供たちの興味・関心を高め、主体性を引き出し、個に応じた指導の充実を図るため、ICT（タブレット PC 一人一台端末等）を積極的に活用した授業を展開します。</li> <li>・区の施策である放課後学習教室（EDO スク）を令和8年度も4～6年生で実施します。希望する児童が、できるだけ参加できるようにします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちの「なぜ?」「どうして?」という疑問を引き出し、その疑問に答えていくことを大切にします。</li> <li>・子供たちの主体性を引き出し、思考力・判断力・表現力を養っていきます。その実現のために、授業における「課題設定・自力解決・かかわり合い・まとめ・振り返り」の流れを「小岩小授業スタンダード」として確立し、子供たち一人一人が自ら課題を設定し、自分の考えをしっかりともち、さらに表現できるよう支援していきます。</li> </ul>
<p><b>③外国語・外国語活動の充実</b></p>	<p><b>④教員の専門性を生かした指導の実施</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・躊躇なく外国語を話すことができる児童の育成をめざし、全学年でALTを配置した授業を展開します。低学年は新たに年間10時間の配置、3年生以上は今年度と同じく年間35時間の配置となります。</li> <li>・学校公開の中の1回を「English Day」とし、全学年において外国語、外国語活動の授業を公開します。</li> <li>・地域のよさを生かしたBLT（ボランティア・ラングエージティーチャー）を活用し、子供たちが日常的に外国語に慣れ親しむことができるような環境を整えていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で教科によって、専科制、または教科担任制を実施します。専科制とは、図工や音楽、家庭科、外国語のように、その教科を専門とする先生が担任に代わって授業を行うことです。教科担任制とは例えば、2学級の学年の場合、それぞれの先生が自分の専門性を生かし両方の学級で理科や社会の授業を行う、というように担任ではない先生が授業を行う仕組みのことです。</li> <li>・教員の専門性に触れることで、子供たちの個性や意欲を伸ばすことができます。</li> </ul>
<p><b>⑤基礎学力定着のための取組</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間を有効に活用し個別学習に取り組めます。毎週火、水曜日は朝読書を実施し、毎週木、金曜日にはミライシードを活用したドリル学習及び、よむYOMUワークシートを活用した学習を実施します。</li> <li>・算数科において3年生以上は習熟度別少人数指導を行います。習熟度別少人数指導は例えば3学級であればそこに少人数担当の先生が加わり、学級の枠を取り払い4つに分けて指導する形態です。なお低学年においても単元や学習内容によって習熟度別指導を行います。その場合、例えば2学級であれば学級の枠を取り払い2つに分けて各担任が指導します。</li> <li>・全教員で一つのテーマを決めて学ぶ校内研究や校内研修を充実させます。学んだことをそれぞれの先生が授業の中で生かすことで、基礎学力の定着に結びつきます。</li> </ul>	

## 取組2

### 「豊かな心の育成」(思いやりのある子)

◎人とのかかわりを通して、豊かな心の育成に取り組んでいきます。

①学級経営の充実と規範意識の醸成	②体験活動の充実
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級の中で子どもたち一人一人に明確な役割を与えます。そして、できたことや頑張ったことを認め、褒めることで自己有用感を育てていきます。子どもたちにとって学級が居心地のよい場所になるような学級経営を進めていきます。</li> <li>基本的な生活習慣の定着のために「小岩小生活スタンダード」(時間行動・靴揃え・あいさつ・廊下右側歩行・環境保護整備)を全校で行います。生活指導を通して、子どもたちの規範意識の醸成を図っていきます。</li> <li>各学年、学級においても学年目標、学級目標を定め、その達成に向けて取り組んでいく中で集団行動の大切さについて学んでいきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心の育成を図るために、コミュニティ・スクールとして、地域と連携した体験活動を充実させていきます。例えば2年生は「お店見学」で小岩の商店街をグループごとに見学します。3年生は「小松菜農園見学」のほか、「小岩神社見学」「消防署見学」「警察署見学」等も行います。4年生は総合的な学習の時間を中心に「福祉・ユニバーサルデザイン学習」に取り組みます。5、6年は「小岩の町をきれいにしよう・小岩クリーンデイ」など、小岩地域の方々と一緒に様々な取組を行います。</li> <li>学校全体では、進んで挨拶する姿勢や思いやりの心を育てるため、小・中学校及び地域と連携した「あいさつ標語コンクール」等に取り組み、あいさつの大切さを学びます。</li> </ul>
③特別活動・読書週間の充実	④情報モラルの育成
<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢集団による「なかよし班活動」を推進します。豊かな人間関係や思いやりの心を育むため、異年齢・異学年による活動「なかよし班活動」の取組を実施します。</li> <li>音楽に親しむ心や豊かな情操、地域に参画する姿勢等を養うために、4～6学年児童有志によるブラスバンド「ブルーラビットバンド」の活動を推進します。</li> <li>「読書週間」の設定、学校応援団ボランティアによる読み聞かせ、小岩図書館と連携した取組を推進し、図書に親しむ子どもの育成に努めていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸川区では、これまで家庭でのタブレット活用について課題が指摘されてきました。そこで、次年度より区の方針により「YouTube」の視聴が制限されることになりました。このことを受け、校内で再度、ルールを徹底します。「SNS 学校ルール」及び「SNS 家庭ルール」について、なぜルールが必要なのかということをお子たちに十分指導した上で徹底を図っていきます。</li> <li>SNS 関連トラブルの防止については、学校独自に作成した「こいわっこタブレットルール」に基づき、情報モラルの育成に努めます。そしてトラブルの未然防止や情報モラルの育成に係る取組を推進します。</li> </ul>

◎次の取組を通して、心と体の健康づくりに取り組んでいきます。

①体力向上のための体育授業及び体育的行事・活動の充実

- ・体育科授業の充実を図ります。運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を養うための学習過程を設定します。
- ・コミュニティ・スクールであることを生かし、地域の中で専門的に運動に取り組んでいる方をゲストティーチャーとして招き、授業の中で子どもたちが本物に触れることで、運動に興味をもち、主体的に取り組もうとする態度を養っていきます。
- ・5, 6年生の水泳運動においては、長く泳ぐこと、長く浮くことに重点を置いた指導を行うことで、安全に泳ぐための技能を身に付けるようにするとともに、全学年で着衣水泳を実施することで、自分の身を守るための方法について学びます。
- ・運動会やなわ跳びウィーク、なわ跳び集会、ランランウィーク、ランランフェスティバル、竹馬活動等の行事や体育的活動の実施を通して運動好きな児童を増やし、運動の日常化を図ることで体力向上の基礎を培います。
- ・全国体力調査においては、事前指導を行い、運動の方法についての理解を深めるとともに、結果を活用し、指導の改善を図ります。

②保健指導の充実

- ・歯科保健教育として「歯ッピープロジェクト」を学校、家庭、関係機関と連携して推進します。虫歯の罹患率を下げるために、虫歯のない児童、また虫歯を治療した児童には、イラストの専門家の方がデザインした素敵なカードをプレゼントします。

③食育の推進

- ・給食において、栄養士の専門性を生かし、季節に応じた食材の提供や日本の伝統料理、世界の料理、また洋食・和食のマナーを学ぶ機会を設け、食への関心を高め、豊かな食生活を実現していこうとする態度を養います。
- ・食物アレルギーに係る事故防止及び事故発生時の迅速・的確な対応を図るために、研修会を行う等の準備を行います。

④かかわる力の育成

- ・子どもたちは遊びの中で、多くの友だちとかかわりルールの大切さやかかわり方を学んでいきます。そういう意味においては休み時間は子どもたちにとって大切な時間です。
- ・そのため学校では、子どもたち同士が少しでもかかわる時間を多く取れるよう常に時程を工夫し、外遊びの時間を確保します。

⑤心の健康を図るための取組

- ・子どもたちの人間関係における問題の発見と予防のために、スクールカウンセラーと担任が連携していきます。普段の学校生活を通じて子どもたちの生活をきめ細やかに観察しながら、担任や専科教員への助言など必要なサポートを行っていきます。
- ・また、5年生には毎年スクールカウンセラーとの全員面談を行っています。

◎通常学級のほか、特別支援教室「さくら教室」弱視通級学級「ひまわり教室」日本語指導学級「ふじ教室」が併設されている学校の特色を生かし、共生社会の実現に取り組んでいきます。

### ①特別支援教育の推進

◎自分も周りの人も大切にすることを育むため、家庭・地域と連携し全ての教育活動において多様な文化、生き方、価値観等を認め尊重し様々な人々と共に生きる態度と心を培います

#### 【特別支援教室・弱視通級学級】

- ・特別支援教育を推進し、通常学級における一人一人の特性に応じた配慮や指導・支援について工夫するとともに環境整備を行います。
- ・特別な支援を要する児童について、困難の回復と学級での生活が安定したものになることをめざし個別の計画をもとに、家庭や関連機関と連携してよりきめ細やかな指導及び支援を行います。
- ・一人一人の特性に応じた配慮、指導、支援の工夫・充実を図るため、特別支援教育コーディネーターや校内委員会を中核として、巡回指導や特別支援教室専門員、介助員などの活用などの多様な人材のより組織的、効果的な活用や支援機関との連携強化を図ります。

#### 【弱視通級学級】

- ・通級指導学級（弱視）において、障害による学習上・生活上の困難を改善・克服するために、特に視覚認知等・目と手の協応・視覚機器操作技能（ICT含む）・自己障害理解・感覚統合コミュニケーションに関する自立活動の指導の充実を図ります。

### ②国際理解教育の推進

#### 【日本語指導学級】

- ・日本語通級指導学級において「読む・書く・聞く・話す」の基本的な言語能力を育てるとともに、教科学習の基礎基本の定着や具体的な場面で日本語表現ができるようにする指導支援の充実を図ります。
- ・自国文化や日本を含めた他国文化の理解（豊かな国際感覚）を深め「共生の姿勢」を養うため、国際理解教育を推進します。

### お互いを理解し合い、認め合える社会性の育成

#### ◎特別支援教室設置校としての特色を生かしたインクルーシブ教育の推進

インクルーシブ…日々の生活の中で様々にかかわるすべての人に興味をもち、その生き方を認め、尊重すること

- ・世代や言葉、文化の違い、障害の有無などにかかわらず、すべての人がお互いを理解し合い認め合うことができる「共生社会」をめざし、障害のある人たちとの交流活動、全校たてわり班活動、各学年での障害理解教育等に取り組み、人とのかかわりを深めていきます。

◎コミュニティ・スクールとして学校運営協議会と連携し、子どもたちの主体性や社会性を引き出す活動や交流を通して、自分たちの住む街に愛着と誇りをもち、未来を自らの手で切り開いていくことができる子どもを育てていきます。

### ①地域と連携した体験的なキャリア教育の実施

◎子どもたちが地域の一員であるという自覚をもつために、学齢に応じた様々な学習プログラムを組み立てて、町会・自治会・商店会・地区委員会・同窓会等、地域の協力を得ながら実施します。

#### 【1年生】

・昔遊び体験・生き物探し・花の植え方や育て方指導・日本の伝統技能体験（相撲教室）

#### 【2年生】

・町探検・商店街見学・生き物探し・小松菜農家見学・外国の紹介（外国の文化やしぐさ）  
日本の伝統技能体験（相撲教室）

#### 【3年生】

・そろばん指導・小松菜農家見学・スーパーマーケット見学・地域調べ（小岩神社・警察署・消防署・小岩事務所等）・小岩の歴史の話を聞く・自転車安全教室・ヒマラヤン・インターナショナルスクールとの交流

#### 【4年生】

・そろばん指導・障害をもつ方との交流・手話体験・地域の祭りについて話を聞く・伝統文化（琴・お茶・お花等）・ポッチャ体験・ボランティア体験

#### 【5年生】

・家庭科ミシン指導補助・日本の伝統文化を学ぶ（お茶・お花・着物・三味線等）・外国の文化について外国にルーツをもつ方に聞く（文化・言葉・しぐさ等）・地域の方によるスポーツの指導（マラソン・短距離・バスケットボール等）・バケツ稲体験・地域清掃活動

#### 【6年生】

・家庭科ミシン指導補助・日本の伝統文化を学ぶ（書道・ものづくり等）・外国の文化について外国にルーツをもつ方に聞く（文化・言葉・しぐさ等）・地域の方によるスポーツ指導（体育大会に向けて）・地域清掃活動

#### 【全校児童に係る取組】

・地域の方による方面別集中下校訓練の見守り・図書ボランティアによる読み聞かせ（保護者）  
・歯ッピープロジェクトクエストカード作成

### ②5町会・青少年育成小岩中部地区委員会との連携

◎5町会や青少年育成小岩中部地区委員会の主催する行事への参加を呼びかけます。

・ラジオ体操（各町会）・盆踊り・5町会運動会・餅つき・小岩中部地区まつり（ブルーラビットバンド参加）・野外映画会・防災体験フェア・ドッジボール大会